

幼稚園教育要領等の実践を通して幼児の資質・能力を育む園長の役割について

令和6年10月、文部科学省『今後の幼稚園教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告』において、「教員は専門性を発揮して幼児一人一人の興味・関心、夢中になっていること、育ちつつある資質・能力等を捉えて意図的・計画的に環境を構成し、幼児が自発的に遊ぶ中で、主体的に自己を発揮し充実感や満足感を味わったり、友達と協同して活動する楽しさを味わったりできるようにしていくことが重要である」と示されている。また、「保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの一部誤解もあることから、国においては、幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について、幼児教育施設はもとより、保護者や地域等に対する一層の普及啓発に取り組んでいくことが必要である」とも示された。

東京都国公立幼稚園・こども園（以下、国公立園）では、これまでも幼稚園教育要領等に則った教育を推進してきたが、さらに保育者の専門性を高めて幼児期にふさわしい教育を追求し、幼児教育において育みたい資質・能力を確実に育み、その取り組みを社会としっかりと共有していくことが求められている。

本調査では、社会や行政からの国公立園への期待に応えるためにも「幼稚園教育要領等に則った実践を通して幼児の資質・能力を育む園長の役割」を明らかにしたいと考えている。

【アンケート調査の実施概要】

- 1 調査方法 Webにてアンケート調査を実施
- 2 調査対象 東京都国公立幼稚園・こども園 園長123名
- 3 調査期間 令和6年11月

【アンケート調査結果の分析・考察】

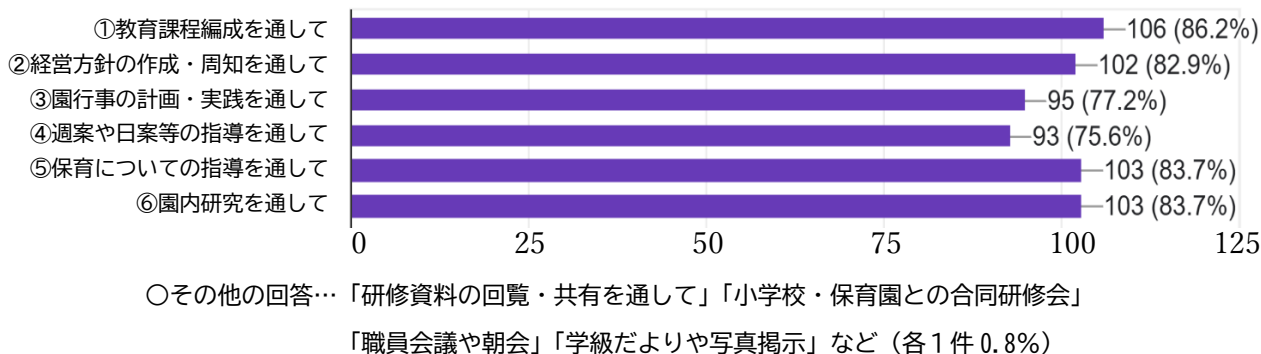
1 人材育成について

現行の教育要領等の改訂では「幼児教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などが明示され、私たち保育者には、教育要領等に則った実践を通してそれらを具現化していくことが求められています。そのために、園長は様々な方法で指導、助言をして保育者を育成することが重要です。教育要領等に則った実践を通して保育者を育成していくために、園長としてどのようなことに取り組んでいるかについて、次の設問へ回答してもらった。

※アンケートでは「幼児教育において育みたい資質・能力」を「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、「保育者」を「教員」と設問している。

(1) 貴職は、園経営において幼稚園教育要領等が示す「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育むことについて、どのような場面で教員への意識づけを図っていますか。
当てはまるものを全てお選びください。

123 件の回答

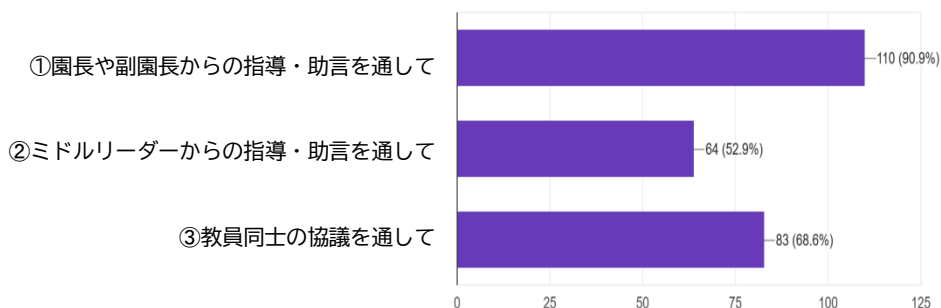


【分析】

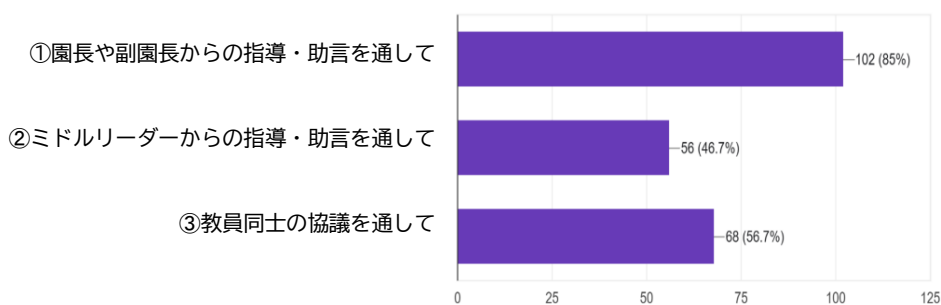
- ①「教育課程編成を通して」②「経営方針の作成・周知を通して」⑤「保育についての指導を通して」⑥「園内研究を通して」が80%以上と高い。教育課程編成と保育の実践、また幼児の経験と保育者の援助を振り返ることができる園内研究において、保育者に資質・能力の育成への意識付けを行っており、保育者が資質・能力の育成に意識をもって実践することを目指している。
- ③「園行事の計画実践…」や④「週案・日案の指導を通して」では、育みたい資質・能力をふまえた実践計画として、幼児に経験させたいことや、指導内容・方法などについての指導が主体となると思われる。
- その他の回答を見ると、園長は様々な機会を捉えて、「幼児教育において育みたい資質・能力」について保育者に意識づけを行うことに努めていることが読み取れる。

(2) 貴園の教員は、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育むことについて、どのようにして理解を深めていますか。当てはまるものを全てお選びください。
 場面毎にお伺いしておりますが、当てはまるものが無ければ、未選択のまま、次の場面の設問にお進みください。

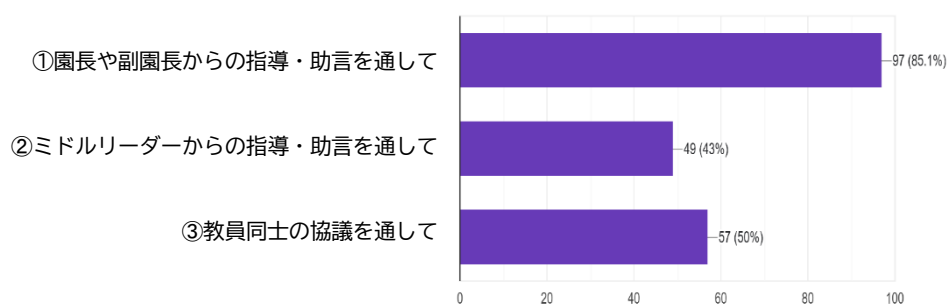
●日々の保育場面で（121件の回答）



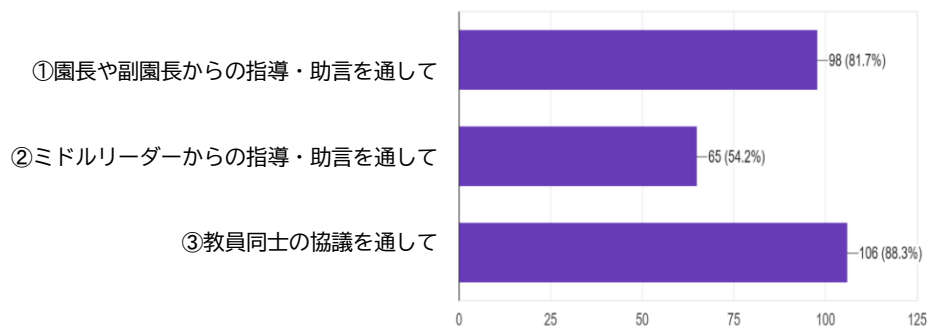
●計画立案・記録の作成の場面で（120件の回答）



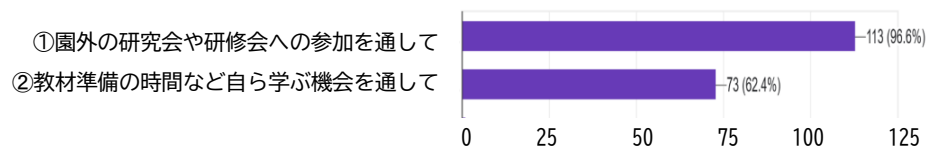
●学級だよりやドキュメンテーション作成の場面で（114件の回答）



●園内研究の場面で（120件の回答）



●その他の場面で（117件の回答）



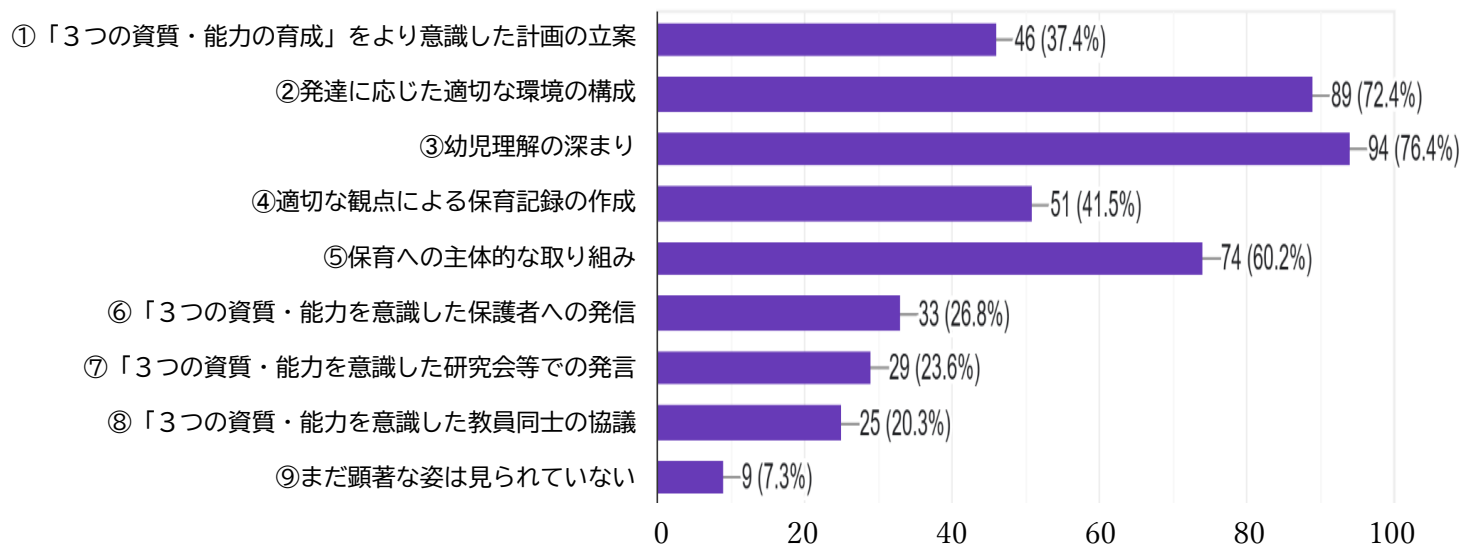
○その他の回答…「保護者との連携を通して」「日々の保育後に教員同士で話をするを通して」

「同期の仲間との情報交換を通して」「保護者対応についての相談を通して」など（各1件0.9%）

【分析】

- いずれの場面でも、①「園長や副園長からの指導・助言を通して」の割合が高く、管理職が直接様々な場면을捉えて率先して理解促進を進めていることが分かる。園長は、資質・能力の育成について保育者の理解を深めるために、保育実践での具体的な幼児の姿や援助を振り返る場面、実践を価値付けて発信する場面、ねらいや経験内容を踏まえて計画を立案する場面等を、理解を深める機会として、設定・活用していることが分かる。
- 次に多かったのは、③「教員同士の協議を通して」である。特に、園内研究など保育者同士が学び合う機会では、幼児期に育みたい資質・能力を高めていくことに結び付けながら幼児の姿の分析・評価や援助についてなどを協議し、保育者の資質・能力を高めることに取り組んでいる。
- ②「ミドルリーダーからの指導・助言を通して」は、どの場面でも、割合が半数程度と低い。これは、ミドルリーダーの存在自体も、また育成も難しいということではないかと推測する。単学級、年齢層の偏り、正規フリー教諭の配置がない等の理由から、ミドルリーダーが役割を果たしていくことが難しい場合もあるのではないかと考える。ミドルリーダーを育成し、活用することで、園内で組織的に資質・能力の育成に当たることができると考える。
- 幼児教育において育みたい資質・能力について学ぶ場として、研究会や研修会の場が多い。また、教材研究などの「自ら学ぶ場」においても資質・能力について学んでいることが読み取れる。「自ら学ぶ場」を提供し、保育者の学びを支えていくことが大切である。

(3) 貴園において「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育むことについて理解が深まった教員には、どのような姿が見られるようになりましたか。当てはまるものを全てお選びください。*特に顕著な姿が見られるようになった教員(1人)についてご回答ください。



【分析】

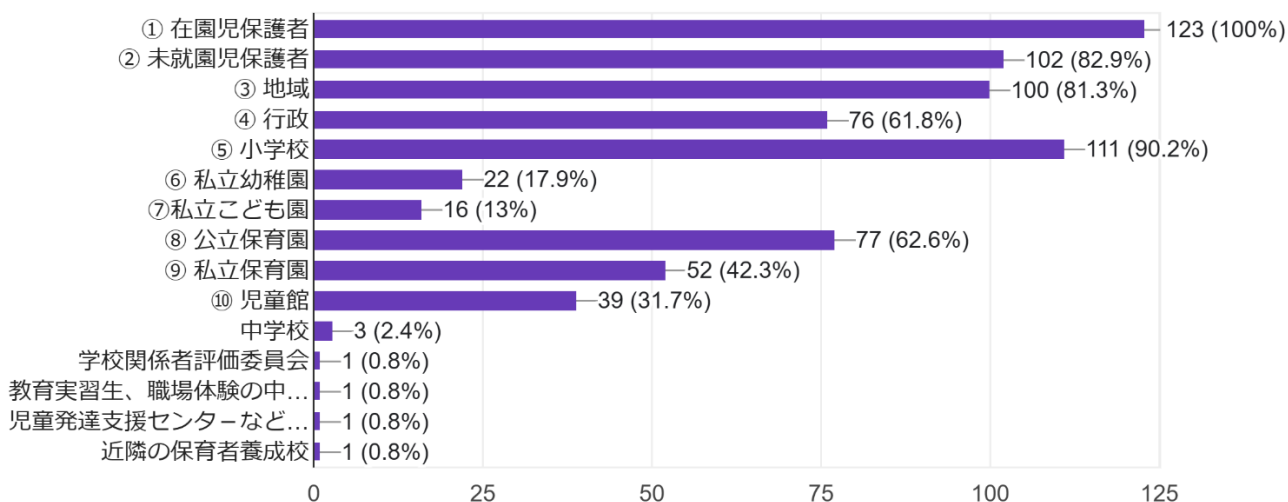
- ②「適正な環境の構成」③「幼児理解の深まり」が、高い数値である。実際に幼児教育で育みたい資質・能力を、実践における幼児の具体的な姿から改めて捉え直すことで、幼児理解が深まり、発達に応じた適切な環境構成ができるようになり、保育の充実や保育者の成長につながっている。
- 一方で、⑥～⑧「3つの資質・能力」を意識した発信、発信、協議については数値が低い。保育者が実践と幼児教育で育みたい資質・能力を結び付けて語れる発信の機会と場を設けることが保育者の育成につながる。

2 「幼児教育において育みたい資質・能力」を育てていることの発信について

国公立園では、「環境を通して行う教育」や「遊びを通しての指導を中心に行う」など、教育要領等に示されている「幼児期にふさわしい生活」を通して、「幼児教育において育みたい資質・能力」を育てています。しかし、そのことを地域・社会と共有することの難しさを感じていることも事実です。「幼児教育において育みたい資質・能力」を育てていることについて、どのように地域・社会と共有されているのか、次の設問へ回答してもらった。

(1) 貴園では、園生活を通して「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育てていることについて、発信・提供をしている対象はどちらですか。当てはまるものを全てお選びください。

123 件の回答

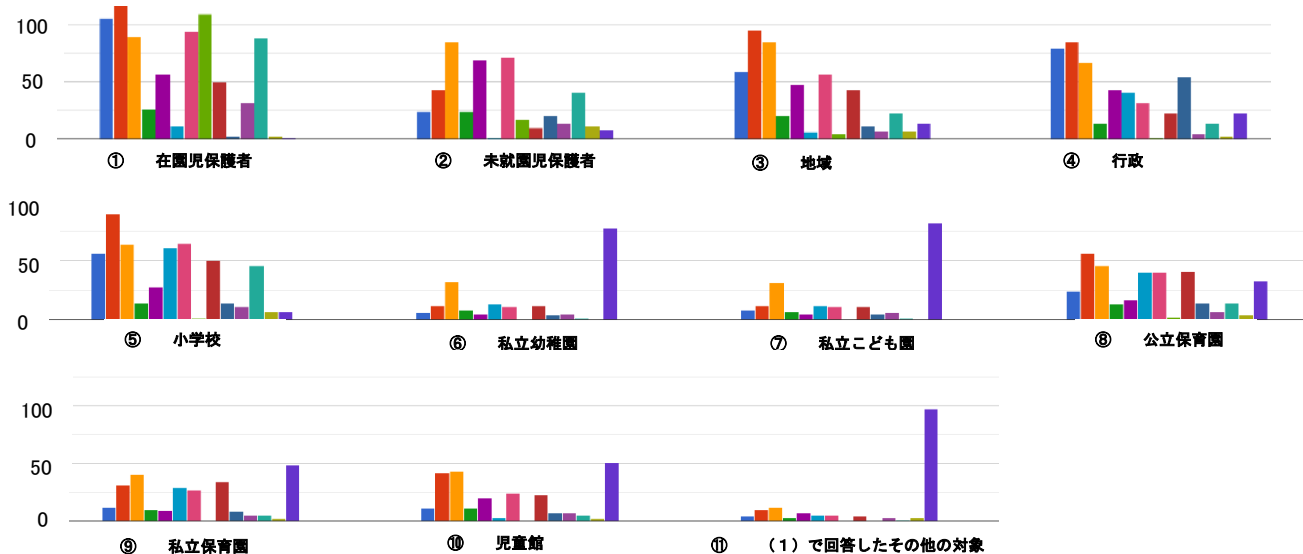


【分析】

- 在園児保護者への発信は 100%である。まさに今子どもたちに生まれていることや、幼児教育の重要性を園は保護者に発信していることが分かる。
- 次いで、小学校 90.2%、未就園児保護者 82.9%、地域 81.3%が発信先として高く、国公立園が関わりをもっている先に、積極的に発信しているといえる。
- 私立園が近隣にない園もある中で、私立幼稚園 17.9%、私立こども園 13%、私立保育園 42.3%に発信していることから、国公立園の園長は、就学前教育のつながりの重要性を感じていることが読み取れる。
- 地域の公私立幼稚園・こども園・保育園の有無により数値に違いがあるが、国公立園の園長は、幼児教育保育施設へ横のつながりを意識して発信をしている。小学校への発信は高い数値となっており、国公立園の園長として、縦のつながりを生かした発信をしている。このことから、地域・社会と共有するための結節点としての役割を担う立場であることへの意識をもっていることが分かる。
- その他の回答では、行政や保育園、児童館など、発信先は多岐にわたっており、国公立園は「幼児教育において育みたい資質・能力」を育てていることについて、意識的に発信をしているといえる。しかしながら、発信したことが実際に理解され、共有されているかは把握し難い。

(2) (1) の設問で回答した発信・提供先には、園生活を通して「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育てていることについて、どのような方法で発信・提供していますか。下記の a～nの中から、当てはまるものを全てお選びください。

アンケートの関係で、(1) で選択していない発信・提供先も表に入っています。発信・提供していない対象については、回答不要です。



【分析】

- 発信先によって、効果的と思われる方法で発信している。その中でも「園だより・学級だより」「ホームページ」は、どの提供先にも高い数値になっており、発信しやすいツールといえる。
- 園長は対象に応じて、様々な媒体を使って発信している。その中でも「園だより」は、園の考えを発信する有効ツールとして活用されている。
- ホームページはどの対象にも有効発信できるツールとして捉えられていることが分かる。一方で、受け手がどの程度関心を寄せているのか、理解を深められているのかについては、確認しにくい面がある。
- 経営方針は、在園児保護者、未就園児保護者、地域、行政、小学校、公立保育園で比較的高く、園長が経営方針の中で資質・能力についてしっかりと伝えていこうとする意識が伺える。

(3) (2) の設問で (m: その他) を選択された方は具体的な方法をご記入ください。

【主な回答のまとめ】

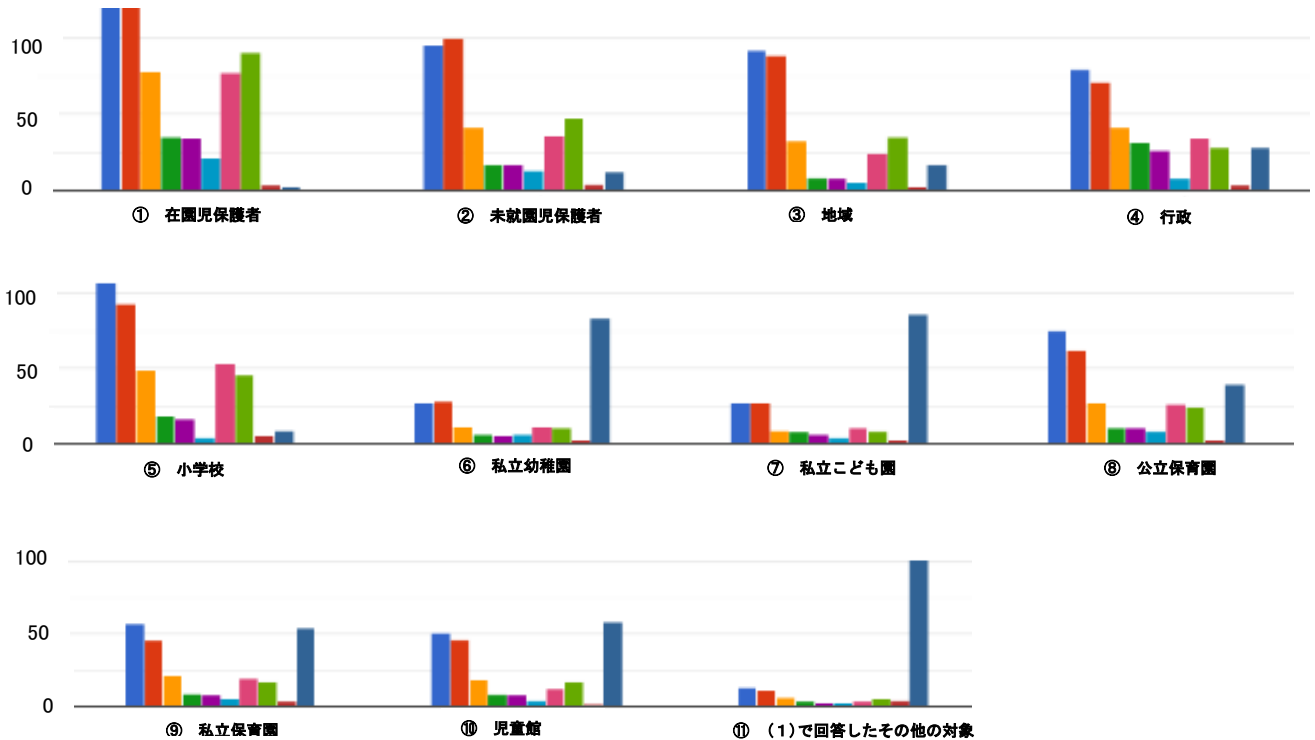
- ①在園児保護者…・保護者の悩みについて相談を受けている時 ・保護者配信アプリ
・毎月の保護者連絡会時に、パワーポイントを使って
- ②未就園児保護者…・未就園児向けの事業（施設開放、遊びの会、親子登園、お話し会など）
・入園説明会 ・育児手帖の配布
- ③地域…・評議員会で説明 ・資料を持参した際
・地域行事の機会や、地域との合同行事を通して ・大学内3園で集会など企画
- ④行政…・資料作成して送付したり、園に招いたりして理解を深める
・会議などで顔を合わせたとき
- ⑤小学校…・園の保育を参観後に、保育内容や幼児の育ちを説明する ・交流活動
・併設小学校と研究会を合同で行う
- ⑥私立幼稚園…・学校運営連絡協議会
- ⑦私立こども園…回答無し
- ⑧公立保育園…・保幼小連絡協議会 ・年長児の交流活動
- ⑨私立保育園…回答無し
- ⑩児童館…・交流活動

【分析】

- 対面で会う機会がある関係先には、会う機会を有効活用して発信していることが伺える。

(4) (1) の設問で回答した発信・提供先に、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を意識した保育を実践していることについて発信・提供をする際に、理解が深まるような工夫について、下記の a~j の中から当てはまるものを全てお選びください。

- a. 幼児の姿から具体的に示す
- b. 写真や動画を活用する
- c. 文部科学省の資料やデータを活用する
- d. 東京都国立幼稚園・こども園長会作成の資料や研究内容を活用する
- e. 全国国立幼稚園・こども園長会作成の資料や研究内容を活用する
- f. (c) (d) (e) 以外の資料や研究内容を活用する
- g. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係で示す
- h. 繰り返し発信・提供する
- i. その他
- j. 該当無し



【分析】

- 発信・提供先に合わせて方法を選択、工夫し、効果的に発信・提供をしている。
- どの発信・提供先に対しても、「幼児の姿から具体的に示す」「写真や動画を活用する」が多い。園生活の中での具体的な姿を示し、視覚的に伝えることで、理解が深まると考えている。そして、繰り返し伝えることが大事だと感じている。
- 文部科学省の資料やデータも有効だと考えている。
- 行政に対しては、共通の理解を得るため、エビデンスに基づいて説明するためにも、東京都や全国国立幼稚園・こども園長会の資料や研究内容を活用することが有効だと捉えている。
- あらかじめ計画されている園説明会や評議員会などオフィシャルな場だけでなく、園の行事後や会議後などのアンオフィシャルな機会も活用し、幼児の姿や写真などの視覚的資料を活用しながら工夫して発信していることが伺える。

(5) (4) の設問で (i : その他) を選択された方は具体的な方法をご記入ください。

【参考となる方法】

- ・ 育つ過程を在園児の姿とつなげて話をする (未就園児保護者)
- ・ 在園児保護者の感想を伝える (未就園児保護者・地域・行政)
- ・ 園長会作成の公立幼稚園紹介 DVD や「まるわかりガイド」を活用する (全ての提供先)
- ・ 園内研究会や研究発表会、区幼研等に参加してもらう (小学校・他の就学前施設すべて)
- ・ 小学校の朝会や校長とのやり取りで伝える (小学校)

(6) 発信・提供した内容が伝わった手ごたえを感じられた事例がありましたら、概要をご回答ください。

【回答のまとめと分析】

①保護者との連携・共感

- ・ **園だよりや説明会を通じて**
園だよりや説明会での発信が保護者に伝わり、「先生方の保育意図が分かった」「教育方針に共感した」との声が寄せられた。未就園児保護者の入園意欲も高まり、転園希望者の増加につながった。
- ・ **保護者会や行事での理解促進**
保護者会で子どもの具体的な姿を通じて資質・能力について説明すると共感が得られることが多かった。誕生会や行事後の茶話会でも、「主体的に遊ぶ子どもたちを大切にしている教育」との理解が深まった。
- ・ **具体的な活動の共有**
野菜の収穫や園庭プロジェクトを保護者と共有することで、園の活動に対する関心が高まり家庭でも保育内容が実践される場面が見られた。
- ・ **写真・動画の活用、子どもの姿を通じて**
行事後や参観の際に、子どもの姿を見せながら育ちを説明すると、教育の意図が理解されやすくなった。説明会後の保護者アンケートでも「分かりやすかった」と好評を得た。

②小学校との連携・理解促進

- ・ **公開保育や講話を通じた理解**
小学校教員が公開保育に参加したり講話を聞いたりすることにより、幼児期の「探究する姿」や「思考力・判断力・表現力」の育成を理解することが多かった。「幼児教育の環境構成を参考にしたい」との声も聞かれた。
- ・ **協議・研修での相互理解**
幼小連携の場での協議を重ねる中で、小学校教員の視点に変化が見られた。「幼児期に育まれる資質・能力を小学校で伸ばすことの重要性」に共感が広がった。

- ・ **具体的資料の共有**

写真や動画を用いた説明、小学校教員向けの資料配布が理解促進に効果的だった。実際の保育の写真や動画を見てもらうことで、幼児期に育まれる資質・能力が具体的に伝わり、「成長がよく分かった」との声が多く聞かれた。また、「小学校との学びのつながり」を意識する教員が増えた。

③地域・行政との連携

- ・ **地域・行政への発信**

地域の研究会や行政と協議の中で、幼児教育の重要性を訴える機会を設けた。文部科学省の動画や資料を活用したプレゼンが好評で、幼児教育の価値を再認識する声が上がった。

- ・ **地域の連携行事での理解促進**

地域の行事や祭りに園児が参加することで、実際の子どもの育ちの姿から、幼児教育についての理解を得ることができた。

【活動のポイント】

- ★保護者には、具体的なエピソードや写真を活用して説明すると共感が得やすい。
- ★小学校教員には、公開保育や講話、具体的資料の配布が効果的である。
- ★地域・行政には、文部科学省資料や地域行事を通じて発信し、理解を深める。
- ★全体的に実際の子どもの姿を見せることが最も効果的で、写真・動画の活用が理解促進のカギ。

(7)「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を意識した保育を実践していることについて発信・提供する際に、難しいと感じることは何ですか。

【回答のまとめと分析】

①保護者への理解促進

- 課題：
 - ・保護者は「遊びの中の学び」や「目に見えにくい成長」についての意図が伝わりにくく、具体的な成果を求める傾向が強い。また、幼児教育の非認知能力などの「目に見えない力」はすぐに結果が出ないため、短期的な成果を求める保護者には伝わりにくい。
 - ・外国籍の保護者に対して、細かいニュアンスが伝わりにくい。

○改善策の方向性：

- ・写真や動画を交えて、具体的な子どもの姿を説明する。

- ・専門用語を避け、日常の例を使う。
- ・幼児期の子どもの成長が「小学校以降の基礎になる」ことを伝え、理解を得る。

②小学校・中学校との連携

- 課題：
 - ・小学校の教員は「遊びを通じた学び」の重要性を十分に理解していないことが多い
 - ・学校や園によっては交流の機会が少なく、幼児教育の成果を直接見てもらう場が不足している。
- 改善策の方向性：
 - ・交流の場を定期的に設け、保育の実践を具体的な場面を通して共有する。

③地域社会との認識の違い

- 課題：
 - ・幼児教育の重要性に関して、あまり理解が進んでいない。また、他園（私立園や保育園）の保育方針に配慮しながら自園の実践を発信するのは難しさがある。
- 改善策の方向性：
 - ・地域の保育施設・住民向けに、幼児の具体的な姿を見せながら説明する機会をつくる。

④若手保育者の育成

- 課題：
 - ・若手保育者が「幼児教育において育みたい資質・能力」を理解し、保育実践を行ったり、保護者に分かりやすく説明したりする力が不足している。
 - ・保育者全体の資質・能力への理解深化が必要。
- 改善策の方向性：
 - ・事例を基に研修を実施し、保育の見取り方や説明力を強化する。
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児教育において育みたい資質・能力」についての理解を促す研修を実施する。

⑤情報発信の工夫

- 課題：
 - ・ホームページや園だよりは、一方的な発信になりがちで、読まれにくい。
 - ・保護者は文字よりも写真・動画を好むが、それだけでは伝わらないことが多い。
- 改善策の方向性：
 - ・SNS や動画配信など、分かりやすく興味を引く発信を工夫する。

【改善のポイント】

- ★保護者への理解促進には、短時間で具体例を使い、専門用語を避けて分かりやすく伝える。
- ★小学校・中学校との連携では、保育の実践を見せる機会を作り、交流を深める。
- ★地域社会との認識の違いには、幼児の姿を通じた説明機会を設ける。
- ★教員の育成と理解深化には、事例を使った研修で説明力を向上させる。
- ★情報発信工夫では、SNS・動画を活用し、興味を引く発信方法を検討する。
- ★成果の可視化の難しさには、子どもの成長過程を写真やエピソードで継続的に発信する。